

手袋など衛生、医療、介護を支える高品質な製品づくり 時代の変化にいち早く対応して成長を続ける老舗企業

医療、食品産業、介護、工業、生活用品の各分野で手袋やゴム製品などを製造販売する宇都宮製作株式会社。創業から110年、パイオニアとして時代のニーズに合わせた高品質な製品を送り出し続ける同社の事業内容について、代表取締役社長の大西 健路氏が語った。



宇都宮製作株式会社 代表取締役社長
大西 健路 (おおにしけんじ)氏

創業時から受け継ぐ パイオニア精神

医療関係を中心に食品、介護、各種工業から生活用品に至るまで、手袋などの製造販売を手がけているのが宇都宮製作株式会社だ。幅広い取扱品目において、特にゴムを素材にした製品づくりに注力している。

「当社は1903年、大阪・北浜で創業しました。創業当時から、船やシベリア鉄道を駆使してドイツから医療機器を輸入販売するなど、医療関連を軸に事業を展開して参りました」(大西氏)

長い社歴を持つ同社の歩みに見られる製品は、身近な生活環境の中で愛されたものも多い。

「イギリスからゴムの水枕を輸入して、当社で開発した金属製の留め具をつけて販売していました。水銀を使った体温計や、象牙とゴムの管を組み合わせた聴

診器もそれぞれの時代の代表的な製品です」(大西氏)

薬局で販売されていた厚紙の化粧箱に収められたゴムの手袋もそのひとつだ。同社の創業時からのパイオニア精神は、時代を越えて今も受け継がれている。

ものづくりの基本は 常に「人」を中心に

現在も主力製品として挙げられるのは、天然ラテックス、ニトリルゴムなどのゴムや塩ビ、ポリエチレンと言った素材を原材料にした手袋だ。デイスボーザアルタイプの手袋においては、トップシエアを誇る。「当社は医療機関の手術用、各種検査用・工業用などの各分野で、約60年前から手がけており、現在では300アイテムにも及びます。さまざまな用途に合わせて、高品質な手袋を提供しています」(大西氏)

特に高い性能と品質が求められる手術用の手袋は、素手の感触を損なわない薄さや存在を忘れるほどのフィット感などとともに、微細なピンホールも許さない管理体制が求められる。

「常に先端であり続けるよう品質向上に努めるとともに、手術用の手袋は全数に対して厳しい検査を行った後に出荷しています。他の製品についても抜き

取り検査を徹底し、安心してお使いいただける高品質な製品づくりを心がけています」(大西氏)

ものづくりの基本は「人」と捉える同社は、親、子、孫の三代にわたって勤務する社員がいるなど、企業を支える人材を大切にしている。今後は医療関連を軸にしながらも、介護や生活用品分野での自社ブランドの浸透を図る。創業150年に向けて、時代の変化に対応できる考え方を「人」を中心に作っていく方針だ。

宇都宮製作株式会社

【本社】〒578-0965 大阪府東大阪市本庄西1-5-1
【電話】06-6746-2338 【URL】<http://www.u-seisaku.co.jp>
【創業】1903年 【従業員数】1100名 【代表者】代表取締役社長 大西 健路
【事業内容】医療・工業・産業(食品産業含む)分野における各種手袋等衛生材の製造・販売・卸、ゴム・樹脂加工品販売、介護・看護用品販売。

全ての選択には、フィクションに勝るドラマがある。 <http://kenja.jp/>

Leader & Innovation

賢者の選択

全国放送 3/31(日)放送

BS11

毎週日曜/朝10:00~10:55

日経CNBC

毎週日曜/昼12:00~12:55

兵庫・大阪 4/1(月)放送

SUN-TV

毎週月曜/夜10:00~10:55